

**平成22年度第2回  
生涯学習教育研究センター運営委員会議事要旨**

○日 時：平成23年2月10日（木） 10：00～11：30

○場 所：地域国際学習センター3階 304教室（学習相談室）

○議 題：【審議事項】

- ・ 前回の生涯学習教育研究センター運営委員会議事要旨の確認について
- ・ 琉球大学第2期中期目標・中期計画期間における  
「多様な学習ニーズに応じた生涯学習や大学資源の活用機会の提供方策」の策定について

【報告事項】

- ・ 平成22年度中期計画達成プロジェクト「知のふるさと納税」実施状況について
- ・ 生涯学習教育研究センター研究紀要第5号の編集について
- ・ 特別企画板「琉大21世紀フォーラム：ミラクル熟議 in 沖縄」の開催について
- ・ センター企画公開講座の実施について（追加）

○出席者：井上講四（生涯学習教育研究センター長）、背戸博史（生涯学習教育研究センター教授）、後藤武俊（生涯学習教育研究センター講師）、安藤由美（法文学部教授）、大島順子（観光産業科学部准教授）、吉田悦治（教育学部准教授）、等々力英美（医学部教授【代理出席】）、伊良波繁雄（工学部教授）、西本裕輝（大学教育センター准教授）

○列席者：大濱善秀（地域連携推進課長）、幸地秀利（地域連携推進課課長代理）、玉城優里（地域連携推進係 係員）

始めに、大濱地域連携推進課長より、前回委員会の議事内容について説明があった。また、井上委員長より、議事に対して意見・訂正等があれば、後ほど地域連携推進課へ連絡するよう発言があった。

なお、センター機能見直しについて、井上委員長より次のとおり補足説明があった。

センター機能の見直しについては、大城理事が中心となり、平理事、井上センター長、背戸教授の4名で検討を行い、今年度中には見直し案を策定して運営委員会でも提案する予定である。

◆審議事項 琉球大学第2期中期目標・中期計画期間における「多様な学習ニーズに応じた生涯学習や大学資源の活用機会の提供方策」の策定について、大濱地域連携推進課長より資料1に基づき次のとおり説明があった。

中期計画No.29については当センターが実施組織として担当することとなっており、これについては本委員会に取りまとめて実施・報告していくという流れになる。平成22年度計画においては、センター機能の見直しおよび中期計画に沿った学習機会の提供方策の策定が課題となっているため、センター内で協議を重ね、提供方策案を作成した。今回は、当面の方策としているが、センター機能の見直し案が策定されれば、この提供方策案も見直しがあり得るという前提の上での提案である。

審議事項について、以下のような意見等があった。

・この提供方策に関しては、学内でどのような取扱いになるのか。法規等の確認も必要か。

→中期計画 No.29 に関しては、生涯学習教育研究センターが計画推進の管理を担当することとなり、運営委員会です承となれば決定となる。その後、役員会や教育研究評議会へ報告し、センターから大学全体に向けて発信していく予定である。役員会等での意見を受けて修正することはあり得るが、文面確定の際の規程上のチェックは特に必要ない。

・方策 1 および 2 の記述について、公開講座だけでなく、フォーラムやその他の事業も含むよう、「公開講座等」としてはどうか。 →「公開講座等」とすることで了承された。

また、方策 4 の記述について、井上委員長より次のとおり説明があった。

地域貢献推進委員会との連携を掲げているのは、職責上、生涯学習教育研究センター長が地域貢献推進委員会の副委員長となっていることもあり、組織としての協力が不可欠という観点からである。

審議の結果、提供方策の策定については了承された。

◆報告事項 平成 22 年度中期計画達成プロジェクト「知のふるさと納税」実施状況について、後藤講師より資料 2 に基づき次のとおり報告があった。

今年度、中期計画達成プロジェクトに採択された「知のふるさと納税」事業については、八重山編、宮古編という 2 本立てで企画・実施している。今回は、実施のスキームを作り上げるという狙いもあり、事業を実施した上で地域からの評価や効果がより高い事業に関して、成果等を測定し、次年度以降の実施の方法を検討することとしている。八重山編は昨年度同様、八重山出身の本学教員が講演を行い、それによる進学意識の向上や学習機会の提供を行うのが趣旨。宮古編については、宮古出身の学生が小中学生・高校生と交流することで、進学意識の向上や学習への動機づけをはかるとともに離島地域の学力向上、ならびに地域の発展に貢献することが目的。大学生が現地にいないという状況の中、進学意識の向上をなかなかかき立てることができないという現地の課題、ニーズがあり、企画したものである。今回、八重山では教員版、宮古では学生版を実施しているが、今後は予算等も勘案しながら両地域で両企画を実施できるよう検討していきたい。

本事業については、本センターと大学教育センターが共催で企画・実施することとなっているので、事務的な分担についても今後検討するよう、井上委員より発言があった。

◆報告事項 生涯学習教育研究センター研究紀要第 5 号の編集について、背戸教授より資料 3 に基づき次のとおり報告があった。

現在、研究紀要第 5 号の発行に向けて、計 7 本が論稿という形で投稿されている（論文・研究ノ

ート等のジャンルは未決定)。また、2月21日には編集委員会を開催することとなっており、その後、査読を経て3月下旬に修正済み原稿の締め切り、3月末には業者に入稿、4月末に発行というスケジュールとなっている。なお、運営委員の方に査読を依頼する可能性もあることから、論文執筆者名を伏せていることをご了承いただきたい。

◆報告事項 特別企画版「琉大21世紀フォーラム：ミラクル熟議 in 沖縄」について、大濱地域連携推進課長より資料4に基づき報告があった。

文部科学省が今後展開していく事業方針を受け、琉大21世紀フォーラムの特別企画版として、「熟議」という手法を取り入れたフォーラムを開催する予定である。沖縄では初の試みであり、また、文部科学省としては、これらの結果を受けて今後の政策に反映していきたいとのことである。

これについて、以下のような意見等があった。

- ・参加者の公募はどのように実施しているのか。ファシリテーターも公募するのか。

→小中学生はオープン参加としているが、高校生・大学生・一般参加者については今から募集する。新聞への記事掲載および、チラシでの案内を行う予定だが、運営委員にもぜひ動員の協力をして欲しい。また、ファシリテーターについては、現在想定しているグループ分の人数は事前に依頼し、確保しており、事前の研修等も行う予定である。

◆報告事項 センター企画公開講座の実施について、背戸教授より次のとおり報告があった。

2月4日には、農学部の玉城委員に協力していただき、センター企画講座「南の学シリーズ」を実施した。3月5日、6日には「名誉教授シリーズ“琉球大学の至宝”」を実施予定である。各部局への周知等にもぜひ協力していただきたい。

また、生涯学習事業やセンター運営委員のあり方について、以下のような意見等があった。

- ・各部局において、生涯学習教育（地域貢献）に関して取りまとめや検討を行うための委員会等の組織・体制が整っていないのが、大学全体の課題である。

- ・部局において生涯学習事業のPR等を行う際の情報が少なすぎる。また、センターでは様々な新しい試みをしているが、企画の段階でも運営委員に情報を発信していただけると、違った立場からのアイデアや懸念等について意見を出せるのではないかと。

→各部局の教授会の場で全学委員会の報告を行うだけでも少しは改善できるのではないかと考えている。また、運営委員への情報発信については、委員会を定期的に開催することで対応していきたい。

次回の運営委員会は、3月17日（木）15：00～17：00の日程で開催することとなった。

以上